

申込締切後の申込みは受け付けておりませんので、  
余裕をもってお申込みください。

## ■ 個人申込み

申込方法

インターネット  
申込み  
(ホームページから申込み)

- ① 情報処理技術者試験・情報処理安全確保支援士試験ホームページから受験申込みができます。
- ② 受験手数料の払込みは、次の三つの方法があります。

クレジットカード決済

ペイジー (Pay-easy)  
による払込み

コンビニ利用による払込み

## ■ 試験実施日

令和3年 **4月18日**(日) 予定

## ■ 合格発表

令和3年 **6月**下旬予定

### ■ お問い合わせ先

〒113-8663 東京都文京区本駒込 2-28-8  
文京グリーンコートセンターオフィス 15階

**IPA** 独立行政法人 情報処理推進機構  
Information-technology Promotion Agency, Japan

受験申込みはこちら

<https://www.jitec.ipa.go.jp/>

お問い合わせはホームページ右上の「お問い合わせ」から

情報処理技術者試験

検索

国家試験 令和3年度春期

# 情報処理技術者試験 情報処理安全確保支援士試験

実施する  
試験

- 応用情報技術者試験 (AP)
- システムアーキテクト試験 (SA)
- ITサービスマネージャ試験 (SM)
- ITストラテジスト試験 (ST)
- ネットワークスペシャリスト試験 (NW)
- 情報処理安全確保支援士試験 (SC)

- 情報セキュリティマネジメント試験 (SG)
  - 基本情報技術者試験 (FE)
- は実施しませんので、ご注意ください。(CBT方式で実施します。)

「技術がある」と  
口で言うだけじゃ  
分からない。

試験実施日 令和3年

**4月18日**(日) 予定

**IPA** 独立行政法人 情報処理推進機構  
Information-technology Promotion Agency, Japan

# 「技術がある」と口で言うだけじゃ分からない。

IoT、ビッグデータ、AIをキーワードに、「IT力」が競争力の源となる時代が到来しています。技術者だけでなく一般の社会人にもITを理解し活用する力が問われるようになった今、情報処理技術者試験で時代のニーズに即した技術力を証明できます。

| この試験でキャリアアップを目指しましょう! |                    | 令和元年度実績         |              |
|-----------------------|--------------------|-----------------|--------------|
| ワンランク上のITエンジニア        | AP 応用情報技術者試験       | 応募者数<br>99,244名 | 合格率<br>22.3% |
| 経営とITを結びつける戦略家        | ST ITストラテジスト試験     | 応募者数<br>7,527名  | 合格率<br>15.4% |
| 業務とITのグランドデザイナー       | SA システムアーキテクト試験    | 応募者数<br>8,340名  | 合格率<br>15.3% |
| ネットワーク社会を担う花形エンジニア    | NW ネットワークスペシャリスト試験 | 応募者数<br>18,342名 | 合格率<br>14.4% |
| ITサービスの安定提供を約束する仕事人   | SM ITサービスマネージャ試験   | 応募者数<br>5,120名  | 合格率<br>14.7% |
| ITの安全・安心を支えるセキュリティの番人 | SC 情報処理安全確保支援士試験   | 応募者数<br>43,404名 | 合格率<br>19.1% |

情報処理技術者試験

## ■ 試験時間・出題形式

| 時間区分        | 午前                  | 午後                   | 時間区分                | 午前Ⅰ                | 午前Ⅱ                 | 午後Ⅰ                 | 午後Ⅱ                  |          |     |          |
|-------------|---------------------|----------------------|---------------------|--------------------|---------------------|---------------------|----------------------|----------|-----|----------|
| 注意事項の説明開始時刻 | 9:15                | 12:45                | 注意事項の説明開始時刻         | 9:15               | 10:35               | 12:15               | 14:15                |          |     |          |
| 試験時間        | 9:30 ~ 12:00 (150分) | 13:00 ~ 15:30 (150分) | 試験時間                | 9:30 ~ 10:20 (50分) | 10:50 ~ 11:30 (40分) | 12:30 ~ 14:00 (90分) | 14:30 ~ 16:30 (120分) |          |     |          |
| 試験区分        | 形式                  | 出題形式                 | 出題数<br>解答数          | 出題形式               | 出題数<br>解答数          | 出題形式                | 出題数<br>解答数           |          |     |          |
| 応用情報技術者試験   | AP                  | 多肢選択式(四肢択一)          | 80問<br>80問          | 記述式                | 11問<br>5問           |                     |                      |          |     |          |
| 高度試験        | ITストラテジスト試験         | ST                   | 多肢選択式(四肢択一)<br>共通問題 | 30問<br>30問         | 多肢選択式(四肢択一)         | 25問<br>25問          | 記述式                  | 4問<br>2問 | 論述式 | 3問<br>1問 |
|             | システムアーキテクト試験        | SA                   |                     |                    | 多肢選択式(四肢択一)         | 25問<br>25問          | 記述式                  | 4問<br>2問 | 論述式 | 3問<br>1問 |
|             | ネットワークスペシャリスト試験     | NW                   |                     |                    | 多肢選択式(四肢択一)         | 25問<br>25問          | 記述式                  | 3問<br>2問 | 記述式 | 2問<br>1問 |
|             | ITサービスマネージャ試験       | SM                   |                     |                    | 多肢選択式(四肢択一)         | 25問<br>25問          | 記述式                  | 3問<br>2問 | 論述式 | 2問<br>1問 |
|             | 情報処理安全確保支援士試験       | SC                   |                     |                    | 多肢選択式(四肢択一)         | 25問<br>25問          | 記述式                  | 3問<br>2問 | 記述式 | 2問<br>1問 |



情報処理技術者試験・情報処理安全確保支援士試験の試験区分の詳細はこちら  
[https://www.jitec.ipa.go.jp/1\\_1seido/seido\\_gaiyo.html](https://www.jitec.ipa.go.jp/1_1seido/seido_gaiyo.html)

## 企業のキーパーソンからの推奨メッセージ

### 「情報処理技術者試験」は、業界標準の国家試験 知の再現性を客観的に証明する重要なツール

野村総合研究所の人材開発部長の宮原さんに、ご自身のITエンジニアとしての経験と同社の人材育成の観点から、「情報処理技術者試験」の重要性やメリット、さらにDX(デジタルトランスフォーメーション)時代のITエンジニアのあり方、人材育成の展望についてお話を伺いました。

#### デジタル社会の到来で、IT=ビジネスに変化 変革のダイナミズムの体感こそ、ITエンジニアの醍醐味

当社は、日本初の民間シンクタンクとして設立した旧野村総合研究所(リサーチ・コンサル)と日本初の商用コンピュータを導入した野村コンピュータシステム(ITソリューション)が合併して30数年となりました。今では珍しくない「ビジネス×IT」ですが、私どもがそのビジネスモデルの先駆者であると自負しています。おかげ様で当社は、経営改革等のビジネスコンサルティングはもとより、ITの再構築やクラウドサービスの提供などで、多くのお客様から信頼を頂いておりますが、昨今デジタル社会の到来で、コンサルタントとITエンジニアの仕事の境界線が融解していると感じます。元々ITは、経営改革のための道具でしたが、今やまるでビジネスそのものです。この変化の最前線で私たちが日々感じていること—お客様の変革のダイナミズムと一緒に体感し、お客様とともに課題解決して大きな達成感を得る—それこそ今も昔も変わらぬITエンジニアならではの醍醐味と感じます。

#### 変化の時代だからこそ、実践・研修・自己研鑽 三つの有機的な結合が成長には不可欠

このような時代において企業の人材育成がますます重要となります。我々は当社10,000人超のコンサルタント・ITエンジニアの人材育成を担う組織で、社員研修は主要業務の一つです。成長やキャリアに応じたスキル研修、職階別昇格時や経営人材候補などのライン研修に加え、当社の成長戦略に掲げる「DX」「グローバル」に重点をおいた育成にも取り組んでいます。真のプロフェッショナルとなるためには質の高いOJTが最も重要ですが、その実践ノウハウを体系化された知識で補完し完成させるのが研修の役割の一つです。そこに自己研鑽を加え、常に新しい知識でリフレッシュして再現性をより完全なものにする。実践・研修・自己研鑽、この三つを有機的に結合することが当社の人材育成の基本となっています。



株式会社野村総合研究所 人材開発部長  
**宮原 大典** さん  
 (みやはら だいすけ)



福島県出身。1998年に株式会社野村総合研究所に入社。ITエンジニアとして数多くの業種・業務・領域に取り組み、プロジェクトマネージャーを歴任。2017年4月から人材開発部長を務める。

#### 自己研鑽を習慣化する上で「情報処理技術者試験」が重要

「情報処理技術者試験」は、業界各社が社員教育の標準とする国家試験であり、知識や能力の再現性を客観的に証明できる重要なモノサシの一つですが、自己研鑽を習慣化するためにも有効だと考えています。社内では昇格要件や社内認定資格要件として試験合格を推奨しており、新入社員には「基本情報技術者試験」の早期合格を促し、その取組みを通して貪欲に研鑽する土壌が作られています。結果的に「プロなら合格して当然」という雰囲気ともなり、「高度試験」複数合格への強い動機づけにもなっています。

私自身も若手のとき、未経験スキルの新規開拓のために試験を大切にしていました。合格すると網羅的な知識修得の自信となり、向上心や探求心の強い人材と周囲にアピールするきっかけにもなりました。当初アプリケーションエンジニアの経験しかなかった私が、データベースやネットワークなど未経験の「高度試験」に挑戦し合格。その後、当時世界最大級の並列データベース構築プロジェクトのテクニカルエンジニアの業務につく機会を得ましたが、スムーズに業務遂行ができました。自己成長を実感したおかげで、さらなる成長を求め自己研鑽と新業務挑戦のサイクルが回り始めました。

DX時代においては、経験を積み上げて体系化する知識だけではなく、自ら未来の社会像を描き今為すべきことを見極める“バックキャスト”な発想が鍵となってきます。ITエンジニア由来の多彩な発想こそがデジタル社会を切り拓く豊かな価値を創るに違いありません。そのような発想を得るためには、今まで以上に幅広い好奇心と自己研鑽が求められ、習慣化される必要があります。これからのITエンジニアに不可欠となる「自己研鑽の習慣化」ツールとして、「情報処理技術者試験」には大いに期待しています。

#### 多様化するITエンジニアごとのキャリア 「情報処理技術者試験」を幅広い人材育成に活用

「情報処理技術者試験」は、若手のキャリアステップに合わせて「基本情報技術者試験」「応用情報技術者試験」に、その後のキャリアフィールドに合わせて「高度試験」に合格させ、能力開発を促して多様なITエンジニアの育成を推進できます。特に「高度試験」は社内人材の可視化や会社技術力の裏付けにも繋がるため、当社では今後も人材開発の仕組みとして活用していきます。

これまで積み重ねた成果を他プロジェクトでも再現できること、それが証明できなければプロとして十分とは言えません。また変化の時代にキャリア自立を遂げる自己研鑽はプロとして最低限のことです。DX時代のプロフェッショナルキャリアの探索と深化、また再現性の完成と証明のために、皆さんも「情報処理技術者試験」を有効に使ってはいかがでしょうか。